げんきカエル No.78

兵庫県立こども病院ニュースレター

令和４年(2022)　８月１日

院長挨拶

院長　飯島一誠

この“げんきカエル”が皆様のもとに届く2022年8月ごろには、どうなっているのか、正直なところ予想がつきませんが、2022年の年明けから始まった新型コロナウイルスオミクロン株の大流行（いわゆる第6波）で、兵庫県立こども病院も非常に大きな影響を受けました。

第6波では、その感染力の強さから、第5波までとは桁違いの患者数となり、兵庫県でも、20歳未満の方のうち約8万人が罹患するという状況で、兵庫県立こども病院には、中等症及び重症の新型コロナウイルス感染症の患者さん71名（2022年3月31日現在）が入院しました。今や、新型コロナウイルス感染症は、小児の病気になったと言っても過言ではないと思います。

予想外の患者数の増加のために、急遽、一つの病棟を新型コロナウイルス感染症専用病床とし、集中治療室での受け入れ数も最大限に増やして、何とか第6波を乗り切ることができましたが、これは、新型コロナウイルス感染症の診療にあたった医師、看護師らの頑張りのおかげであることはもちろんのこと、“兵庫県の小児・周産期医療の最後の砦としての役割を果たす”という強い使命感のもとに、病院職員全員が一丸となって頑張ってくれたおかげだと考えています。

また、手術制限や入院制限、院内クラスター発生防止のための面会制限の強化等を行わざるを得ない状況になり、患者さんやそのご家族にも多大なご負担を強いることになりましたが、当院では、この間も院内クラスターを起こすことなく診療を継続することができました。改めて、皆様のご協力に感謝します。

今後もしばらくは、“新型コロナウイルス感染症と共存しつつ、これまでどおりの診療を続けていく”という難しい状況が続くと考えていますが、“兵庫県の小児・周産期医療の最後の砦“として、皆様のご期待に沿えるよう、全力を尽くす所存です。

新任幹部職員のご案内

４月に管理局長に着任しました野田です。

当院は、周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指しています。微力ではございますが、お子さんがみんな元気になって退院できるよう、職員と共に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

管理局長　野田　誠一

４月に尼崎総合医療センターからこども病院に着任いたしました。

こども病院の看護部では、こどもの笑顔と頑張る力を引き出す「笑児看護」をコンセプトに多職種で力を合わせて日々患者さんのケアに取り組んでいます。患者、家族そして職員にも魅力的なこども病院であり続けるよう取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

看護部長　大西　美樹

Concept コンセプト

◉基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

◉基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

毎年宇宙に関するニュースを目にしますが、今年は13年ぶりのJAXAによる宇宙飛行士選抜試験の実施や11月の皆既月食など、心ときめく話題が多いですね。

7月には七夕がありましたが、天の川はきれいに観られたでしょうか。七夕と言えば笹飾り。今年も院内には短冊を下げた笹飾りが沢山飾られました。どうか皆様の願いが叶いますように。（M.H）

委員長：貝藤裕史
副委員長：大津雅秀　上西美奈子
委員：深江登志子　細見能文
林卓郎　粟田香奈子
井口秀子　寺田朝子
河野早苗　中村直子
笹倉明子　時克志
松谷春花　北浦泰
永安正典　東川果央

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで

兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL KOBE CHILDREN'S HOSPITAL
〒650-0047
神戸市中央区港島南町1丁目6-7
TEL.078-945-7300
FAX.078-302-1023
https://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

04病P2−003A4

新たなる門出にあたって

北小学校　六年　足立　美樹

今回原稿のご協力を頂きました足立美樹さんは、記念すべき第１回目の患者手記（げんきカエルNo.59）にご協力頂いた方です。その時の手記は、お母様が書いて下さり、美樹さんは８歳で素敵な絵を描いて下さいました。それから５年が経過し、美樹さんは今年３月小学校を卒業されました。今回の記事は作文コンクールで特選に選ばれ、新聞にも掲載されたものです。私たちこども病院スタッフはこれからも、中学生になられた美樹さんのご健勝とご多幸を願ってやみません。

制服の採寸が済み、学校でも卒業に向けた活動が始まっている。卒業を目前に控え、私の心の中は、緊張と期待で大きく膨らんでいる。六年間を振り返ってみれば、歩けなかった私が歩けるようになったり、友達と過ごす喜びや悩みを知ったり、みんなと一緒に学ぶ楽しさを知ったりと、たくさんの成長と経験をすることができた。

それらのことを通して、感じたことをもとに、中学校に向けた心のもち方を考えた。それは、「しなやかな心」をもって過ごしたいということだ。そのために大切にしたいことが三つある。

一つ目は、自分の「弱さ」や「苦手」を認めることだ。私には病気があり、できないことが多くある。それが苦しくて悩んだこともある。また、そのことがきっかけになって、友達関係においても積極的になれず、友達の輪に入りづらいなど、悩みが尽きない。今までは、そのことを無理に直さなくてはと思い苦しんだこともあった。でも今は、「しなやかな心」という言葉に出会って、できない自分もまた自分だと気づけるようになってきた。弱い自分を認めることで、自分を追い詰める必要はないと分かった。

二つ目は、自分自身の「良い部分」を認めることだ。私は、計画的にコツコツと粘り強く取り組むことができる。規則正しい生活、学習など、自分で決めたことをあきらめず、継続して頑張ることができる。規則正しい生活により、あまり学校を休まず登校できたことは、病気がちな私にとって自信になった。コツコツと学習を重ねたことは、学ぶことの楽しさを教えてくれた。自分の「良い部分」を認めることで、自信を持って生活できると思う。

これから先、辛いことや苦しいことがたくさんあるだろう。しかし、「しなやかな心」をもって過ごすことができれば、どんな時も心が折れることなく、切り抜けられると思う。

最後に、感謝の気持ちも忘れずにいたい。私が生きる上でたくさんの人にお世話になってきた。病院の人達、行政の人達、学校の先生達のおかげで、今の自分がある。

そして家族。私の一番の親友でいつも色々なことを教えてくれる兄、限りない愛情で、私によりそってくれる父、いつでもどんな時でも厳しく、私を守ってくれる母。私にとって家族は、心に安らぎと幸せを与えてくれるかけがえのない存在だ。

「しなやかな心」と「感謝」を大切に、新たなる門出を迎えたい。

こども病院コロナ奮闘記

感染対策チーム

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の流行開始から２年半が経過し、現在日本は第７波の入口に位置しています。これまでに当院は約130 名の患者さんを受け入れました。コロナのこどもが付き添いなしで入院できる施設は兵庫県では当院だけです。こどもたちの幸せのために職員みんなで知恵を出し合ってここまできました。この度、その声を奮闘記としてまとめました。

１．コロナ患者担当部署の医師、看護師

実働部隊として“やるしかない”という思いで、みんなで取り組みました。防護服を着て長時間、感染病床に入室する看護師の身体的・精神的負担は大きく、また情報収集の難しさもありました。その一方で、コロナの患者さんを担当していることを他部署の職員が理解し、労いの言葉をかけてくれたことが心の支えになりました。家族と会えなくても患者さん自身が治療を頑張ってくれたこと、ご家族が面会制限を理解し協力してくださったことが励みになりました。

２．看護部、保育士

患者さんやご家族の不安を少しでも軽減することを大切にしました。当院は部分的な面会制限はしても一律の面会禁止は一度もしませんでした。面会継続のために病棟入室前の体調確認を徹底し、プレイルームは使用ルールを決め、こどもたちにとって大切なあそびや行事を継続できる方法を保育士と考えました。保育士は頑張っているこどもたちやご家族を守りたいという気持ちで取り組み、こどもたちが遊びながら感染対策に親しめるようにも工夫しました。季節行事の前には「手伝えることないですか？」と多職種の方から声を掛けてもらい、職員のあたたかさも感じました。

３．関連各部門

①薬剤部

治療薬の確保と管理、運用手順作成、情報提供に努めました。一丸となってコロナを乗り越えようとする病院としての思いを薬剤師みんなで受け止め取り組みました。

②検査部

コロナ関連検査関連業務の増加、検査資材不足などに対応しました。以前からあった感染対策チームと日常的に情報共有できる環境が安心につながりました。

③放射線部

院内統一の撮影時作業手順を作成し、患者さんや職員の安全につなげました。

④栄養管理課

就業制限者が出たときにはみんなで協力体制を取り、毎日給食を確実に提供できるように出勤者を確保しました。

４．感染対策チーム

「病院機能を維持し全患者を幸せにする」という理念のもと活動しました。対策本部の立ち上げやマニュアル類の改訂などの業務が倍増しましたが、現場主体で考えられるよう各部署を支援し、役割分担を行うことで乗り切れました。病院全体みんなで考え改定を重ねたロードマップは、一目で現在のルールが何かを把握でき、明確な方針を立てることができる羅針盤として活躍しています。小児専門病院という病院機能維持のためにクラスターを起こしてはならないという思いで、全職員が私たちを信じてくださった事に感謝しています。